

郷心会 Kyoshinkai だより Vol.158

2024年 1月

■郷心会連合会 〒730-0011 広島市中区基町5-44 広島商工会議所ビル内
■E-mail kyoshinren@mazda.co.jp
■ホームページ <https://www.kyoshinkai.jp/publication/>



2024年新春のご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございました。

昨年は人々が集まり交流できる場が増え、郷心会の活動も活発になった年でした。これまで以上に健康と安全が当たり前に戻ることが望むとともに、日常においても感染予防に努め、安心して過ごせることを願っております。

今年の干支は辰(たつ)ですが、天に昇る龍のように勢いのある年になりますように、今年も引き続き「郷心会の輪」を着実に広げ、広島をさらに盛り上げていきたいと思えます。

新しい年が皆さまにとって、素晴らしい年となることを祈念いたします。今年もよろしく願いたします。



郷心会連合会会長
高場 敏雄



【呉】
八代会長



【東広島】
石井会長



【福山】
赤松会長



【尾道】
杉原会長



【府中】
田中会長



【庄原】
山根会長



【因島】
宮地会長



【竹原】
日浦会長



【安芸】
宮田会長



【三原】
赤利会長



【大竹】
村中会長



【廿日市】
岩根会長

広島県商工会議所連合会 池田会頭

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、よき新年をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。

郷心会におかれましては、郷土産業の振興に日々取り組んでおられますことに、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

さて、当連合会では、G7広島サミット開催後のインバウンド需要拡大等を捉えた県産品の販売促進や、ひろしま製品の愛用を通じて地域経済の活性化を図る運動である「BUYひろしま」に取り組むなど、様々な諸活動を展開いたしております。

会員の皆様には、当連合会活動への一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様方にとりまして素晴らしい年となりますよう心から祈念申し上げます。



広島県 湯崎知事

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、清々しく新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、本県では、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思える」広島県の実現のため、令和6年度は、新型コロナウイルス感染症によって生じた人々の価値観や暮らし方・働き方などの不可逆的な変化と、G7広島サミットで高まった広島のプレゼンスをチャンスと捉え、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」に掲げるそれぞれの取組を加速させてまいります。また、郷心会をはじめ経済団体等の皆様と緊密に連携を図りながら、マツダ車をはじめとした「ひろしま製品」の魅力を広く内外に発信し、消費拡大に繋げることなどにより、県経済の持続的な発展を目指してまいります。郷心会の皆様には、引き続き、こうした本県の取組へのお力添えをよろしくお願い申し上げます。新年の門出に当たり、郷心会のますますの御発展と、会員の皆様の御多幸を心からお祈り申し上げます。



第66回郷心会連合会会長会議

11月20日、ANAクラウンプラザホテル広島において、広島県副知事、マツダ(株)毛籠(もろ)社長をはじめ多数のご来賓ご臨席のもと、広島県内各郷心会の会長・専務理事にご出席いただき、「第66回郷心会連合会会長会議」を開催しました。

開会にあたり、高場会長(中国電力(株)代表取締役副社長執行役員)から、2025年に郷心会が発足50周年を迎えるとして「『郷心会・マツダのファン作り』を進め会員満足、会員数増加に取り組み、郷心会ブランドを高める活動を推進していきたい」と挨拶がありました。

ご来賓の玉井副知事からは、郷心会の地域産業振興や活性化への貢献のお礼と、マツダMX-30ロータリーEVの国内納車が始まったことに触れ、「カーボンニュートラル実現に向けた新たな挑戦が、自動車関連産業をはじめとする県経済に好影響を与えることを期待している」と述べられました。



玉井副知事



高場会長



その後、議事に入り令和5年度事業及び収支の経過報告が審議され原案どおり承認されました。

マツダの毛籠社長は就任後初めての出席で「広島発のブランドとして地元の方からも良いね、と言ってもらえるように地元貢献にしっかり汗をかく」と挨拶されました。



マツダ(株)毛籠社長



マツダ(株)山地様

続けてマツダ(株)山地様より、「MADAMX-30ロータリーEV」についての講演をしていただき会議は閉会しました。会議終了後の交流会では、懇親が図られ、有意義な情報交換の場となりました。



2024年郷心会合同講演会のご案内

各地区郷心会の横断的イベントとして「第25回 郷心会合同講演会」を開催いたします。ぜひ皆様のご参加を賜りたくご案内申し上げます。

演題 『渋沢栄一の「論語と算盤」で未来を拓く
～持続可能な社会と企業経営～』

講師 渋澤 健 氏(しぶさわ けん)

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役/
コモンズ投信株式会社取締役会長
株式会社and Capital代表取締役CEO

- 日時/2024年2月9日(金)16:00~17:30
- 会場/福山ニューキャッスルホテル(広島県福山市三之丸町8-16)
- 参加費/無料 ●定員/200名

※講演終了後の交流会はございません。

◆プロフィール◆

1961年逗子市生まれ。父の転勤で渡米。1983年テキサス大学化学工学部卒業。1987年UCLA大学にてMBAを取得。米系投資銀行で外債、国債、為替、株式およびデリバティブのマーケット業務に携わり、1996年に米大手ヘッジファンドに入社。2001年に独立し、シブサワ・アンド・カンパニー株式会社を創業、代表取締役に就任。コモンズ投信株式会社取締役会長、株式会社and Capital代表取締役CEOも務める。また最近では、G7広島サミットで発表されたTriple I for GH: Impact Investment Initiative for Global Health(グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ)の共同議長に就任。

著書に『渋沢栄一100の訓言』(日経ビジネス人文庫)、『SDGs投資～資産運用で社会貢献』(朝日新聞出版)、他、多数。

お申込・
お問合せは
各郷心会事務局
まで



府中

「創立30周年会員大会」

府中郷心会は、県内7番目の郷心会組織として平成5年に発足し、81会員でスタートしました。創立30周年を記念し11月26日にジীবベックホールで会員大会を開催、会員約110名様にご参加いただきました。

開会に際し、田中会長から「30周年で304会員まで広げることができた」「今後も地域における郷心会の存在感を高め、輪を広げていきたい。次なる10年に向けて変わらぬご支援、ご協力を賜りたい」とご挨拶をいただきました。

当日は発足から30年間会員を続けている43会員への感謝状贈呈、広島東洋カープOBの安部友裕さんと矢野雅哉選手によるトークショーで大いに盛り上がり、続く交流会では会員様との交流の場として賑やかに楽しんでいただきました。



田中会長
ご挨拶



カープOB、現役選手によるトークショー



大竹

「マツダ防府工場・倉重みかん狩り」

11月23日、会員交流の場として「マツダ防府工場見学・倉重みかん狩り」を開催しました。

まず、到着したのは車海老養殖発祥の地「あいお荘」です。ここで車海老会席料理を素晴らしい景色とともに堪能しました。



あいお荘にて



防府工場にて

次にマツダ防府工場を訪問し、マツダのクルマが出来上がっていく様子を見学しました。多くの方から「楽しかった」「見学は小学校以来」といった声をお聞きました。

最後に、倉重みかん園でみかん狩りを楽しみ、盛沢山のイベントが無事に終える事が出来ました。



みかん狩り

尾道・因島

「マツダファンフェスタ2023 in 岡山」参加ツアー

9月の富士スピードウェイでのイベントに続き、マツダファンフェスタ2023が岡山国際サーキットで11月4日〜5日に開催されました。尾道郷心会・因島郷心会では合同の参加ツアーを企画、36名の会員ご家族の皆さまと、貸切バスでイベント会場へ向かいました。



参加された皆様



サーキットバスツアー



サーキット走行



会場では、プロドライバーの解説を聞きながらバスに乗ってサーキット走行を体験する「サーキットバスツアー」、ロータリーエンジン搭載のレーシングカーなどが目の前を走る「レーシングカー・デモラン」、お子さまでもご参加いただける「ものづくり体験」、運転を安全に楽しくするヒントを学ぶ「マツダ・ドライビング・アカデミー」など、中には事前予約ができるコンテンツもあり、それぞれ自由にファンフェスタを堪能していただきました。

「おもてなしが最高!」「来年もぜひ参加ツアーの企画をしてほしい」「マツダの工場見学にも行ってみたい」など参加された皆さまからたくさんうれしい感想をいただきました。



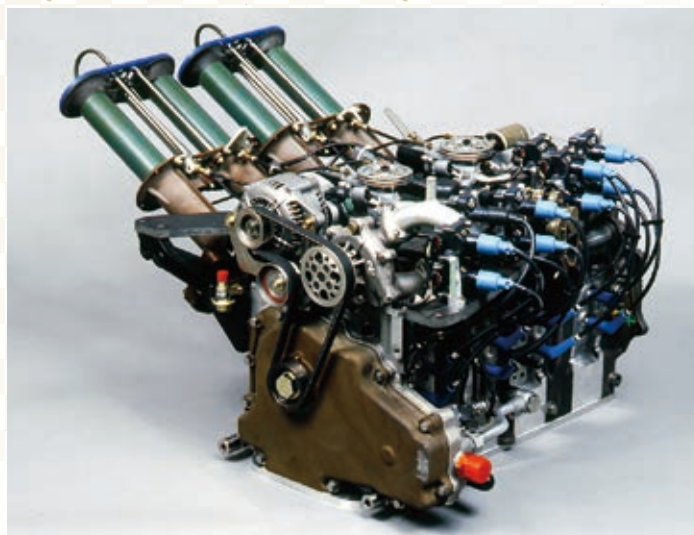
マツダ787Bが 「2023日本自動車殿堂 歴史遺産車」に選定

～以下、MAZDA NEWSROOMより～

マツダ株式会社の4ローターロータリーエンジン搭載グループCカー「マツダ787B」が、「2023日本自動車殿堂*1 歴史遺産車」に選定されました。マツダ車が「日本自動車殿堂 歴史遺産車」に選定されたのは、2003年のコスモスポーツ、2019年の初代ロードスターに続いて、今回が3回目となります。



ルマン24時間レースで日本車として初優勝した
マツダ787B



R26B型4ローターロータリーエンジン

「日本自動車殿堂 歴史遺産車」とは、日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し、日本自動車殿堂に登録し、永く伝承するものです。このたびの選定にあたり、マツダ787Bは「世界最高峰の耐久レースであるルマン24時間レースで、純国産車及びロータリーエンジン車として初の総合優勝」、「『飽くなき挑戦』を続け日本の技術を世界に知らしめた」ことが評価されました。

マツダ787Bは1991年の第59回ルマン24時間レースで日本車として、そしてロータリーエンジンで初めて総合優勝を成し遂げました。1970年に始まったマツダのルマン挑戦は困難と苦難の連続でしたが、そこから培われた「飽くなき挑戦」の精神は人の力を信じ、どんな技術的困難にも立ち向かいマツダ

らしい価値を創造する組織風土となりました。「飽くなき挑戦」の象徴であるロータリーエンジンは今年11年ぶりにその機能を動力源から電動車の発電源へと姿を変えて復活しました。カーボンニュートラルなどの新しいモビリティの時代へ向け、新規開発された8C型ロータリーエンジンは「MAZDA MX-30 Rotary-EV」へ搭載され、航続距離に不安の無い電動車の新しい提案に活用されています。

マツダは、今後も「ひと中心」の価値観のもと「走る喜び」を進化させ続け、お客さまの日常に移動体験の感動を創造し、「生きる喜び」をお届けしていくことを目指してまいります。

*1 特定非営利法人 日本自動車殿堂 <https://www.jahfa.jp/>



最新のマツダ情報やカーライフを楽しんでいただくための
コンテンツを定期的にお届けする無料の会員サービス

CLUB MAZDA ご登録はこちら

